

2012
10
No.134

喜多方普及だより

～喜多方からはじめよう 喜び多い福の島～
「地域に支えられて13年目 お客様との絆を改めて実感！」



塩川産直会 感謝祭

原発事故に伴う放射能問題から、農産物の風評被害が発生し、未だに終息に至っていません。そういった中、管内にある農産物直売所『塩川産直会』（代表：左雨信一郎氏）が、風評被害に対しどのように取り組んでいるか、左雨代表とコープあいづとねがわ店遠藤店長にお話を伺いました。

Q 風評被害払拭、販売回復に向け、取り組んだことは何でしたか。

(店長) 店舗内に、ふくしま応援フェアのポップを掲示したり、県のモニタリング済みの産地や品目のみの仕入れを行い、またお客様にも情報発信を心がけました。

(代表) 組織として、直ぐに会合を開き、県のモニタリング済みの品目のみを販売することを決めました。

Q その成果はどうでしたか。

(店長) お客様の応援機運も高まって、売れ行きは例年通りに回復しました。

(代表) 地元のお客様に支えられ、何とか現状を維持することができました。13年目を迎え、本当にお客様との絆の大切さ、ありがたさを痛感しました。

Q 今後の活動として、どのようなことをお考えですか。

(店長) 当店では、地域に根付いた店舗作りや販売を目指していますので、お客様と信頼関係により結びついている塩川産直会の取り組みを今後も支援していきたいと考えています。

(代表) お客様や生協さんのためにも、安全・安心で美味しい物を安定的に提供できるよう、会員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

『地域のお客様と信頼関係を築くことが大切』という産直会の信念が、今後復興を進める上でのポイントになると思われま。



遠藤店長 左雨代表 長谷川次長

安全・安心な農畜産物の生産・出荷をめざして

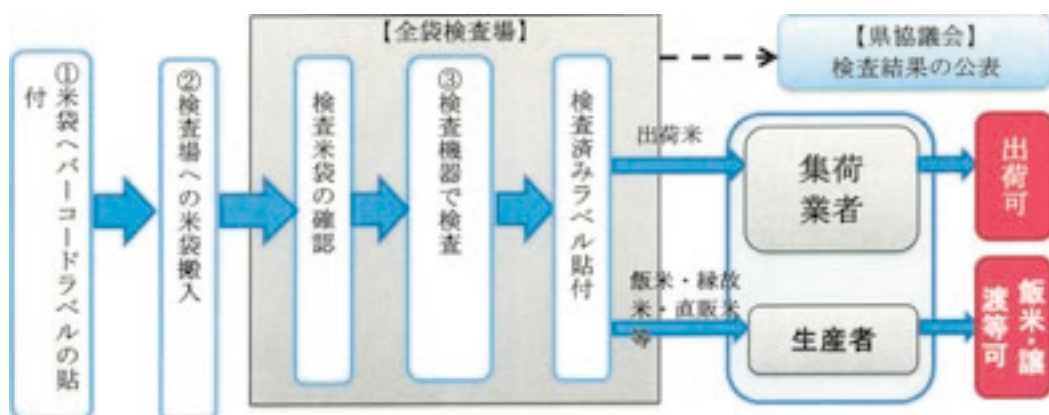
米の全量検査がスタートしました!

9月3日から早期出荷米を皮切りに、ベルトコンベア式の放射性物質測定器で検査しています。

県は、放射性物質が基準値未満である安全性を確認した米だけが流通できる体制整備に取り組んできました。検査の流れは、30kgの玄米袋を1袋ずつベルトコンベアに載せて検査し、放射性物質が基準値未満であると米袋に検査済みシールが貼られる仕組みになっています。

出荷米の他にも、個人販売米や自家保有米、縁故米も全ての米を検査できますので、生産者の皆さまには全量検査への御協力をお願いします。

さらに、検査後の玄米を精米したり、小分けした際に貼るシールを用意しました。こちらも是非ご利用いただき、安全性が確認された米であることをアピールし、風評被害を払拭していきましょう。



米全袋検査の流れ



検査後に貼られるシール



検査済み玄米の小袋や精米に貼られるシール



ベルトコンベア上を移動する米袋



検査済票の貼付

安全・安心な農畜産物の生産・出荷をめざして

風評被害対策には、徹底した検査と情報公開が必須 ～自主検査体制を整備し安全PRを強化～

JA会津いいでは、生産部会や直売所で販売される農産物の風評被害対策として、放射能検査機器を導入し、自主検査による安全確認とPRに務めています。

検査機器は、「ふくしまの恵み安全・安心対策事業」により、タイプの異なる2種類を導入し、アスパラガスやきゅうり、トマト、ミニトマトなど当地の主要な園芸作物の他、米や大豆、そばなどの穀類など、幅広く対応できるようになっています。

園芸作物の検査は、生産部会員を対象とした出荷前検査からスタートし、出荷盛期や需要に併せて出荷期間中も2～3回程度行い、その結果を市場や量販店に提供するとともに、JAのホームページ等で公表し、安全性のPR活動を強化しています。

また、直売所等で販売されている多種多様な品目にも対応しており、地元や観光のお客様に、安全かつ安心して購入いただける体制づくりに取り組んでいます。

県では、旧市町村単位で園芸作物のモニタリングを実施していますが、JA会津いいでははじめ、市町村段階でも自主検査体制が整備されたことにより、より連携を高め、喜多方地域で生産・販売される農産物の安全性のPRに努めてまいります。



検査準備①（写真上）

検体を2～3cmの大きさに粗切りします。

検査準備②（写真右上）

検体をフードプロセッサにより細切れにします。

検査開始（写真右）

専用の容器に充填し、検査機器にセットします。
20～30分で、放射線量を測定します。



祝 福島県農業賞受賞

渡部定衛さん・久美子さん (西会津町)

西会津町の渡部定衛さん・久美子さんご夫妻が、第53回福島県農業賞を受賞されました。渡部さんは、きゅうりの大規模栽培や土地利用型野菜の規模拡大により、優れた農業経営を確立しました。また、西会津町が推奨しているミネラル栽培や環境に負荷のかからない農業の実践と普及、青年農業者の育成、そしてJAの部会活動や町の農業振興に積極的に取り組んできました。さらに、地域の耕作放棄地を本来の畑地として有効に活用し、土地利用型野菜で農業経営が成り立つようにしたいと考え、現在、取り組む人材の育成に励んでおられます。



農業賞表彰式

これらの活動が高い評価を受け、農業経営改善部門で受賞となり、9月21日に杉妻会館（福島市）で表彰式が行われました。

渡部さんには、今後とも地域の発展に、地域農業のリーダーとしてご活躍されますことを期待いたします。

ガンバってます！ 萩原誠明さん・梢さん (喜多方市山都町)

萩原誠明さん(31)、梢さん(26)夫妻をご紹介します。

萩原夫妻は、神奈川県から山都町に引っ越すと同時に結婚し、3年目を迎えました。



萩原夫妻

きっかけは『大学で農学部で在籍し、食に大変興味を持っていました。就職後も農業への魅力を持ち続け、自然豊かな会津で農業を始めたいと移住しました。』とのこと。

就農前に市内の先進的農家をまわって研修し、『農業に可能性を感じました。高品質な農作物を生産し、さらには販売加工まで手がけたい。』と、トマトやナスを生産し出荷しています。

また、地域へとけ込めるよう誠明さんは消防団と青年団に加入し、特に青年団長として活躍するとともに、梢さんは婦人会で地域活動も積極的に参加しています。

トピックス

桧原のそばを紹介し (北塩原村桧原地区)

桧原地区ではそばの生産農家による組合を立ち上げ、そばを作付けして遊休農地解消に取り組んでいます。今年は9月10日から刈り取りが始まり、天候に恵まれて収量・品質ともに良好とのこと。

なお、桧原のそばは、地区内のそば屋さんで食べることができます。また、玄そばとそば粉でも販売しており、桧原遊休農地解消組合(代表 穴澤栄一さん)または、いいでの四季(駅前店、岩月店)で購入できます。

北塩原村にお来しの際は、標高800mで栽培されたおいしいそばを味わってみてはいかがでしょうか。



桧原地区のそば

農薬使用基準を遵守し、農薬は適正に使用しましょう！
農作業事故が増えています。余裕をもった作業を心がけましょう。

～ 内容に関するお問い合わせ、農業に関する相談はこちらへ～

会津農林事務所 喜多方農業普及所

住所 〒966-0901 喜多方市松山町鳥見山字下天神6-3

電話 0241-24-5743、5745 FAX 24-5746 E-mail kitakata.af04@pref.fukushima.lg.jp

ホームページ

喜多方農業普及所

検索

